

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890700040		
法人名	株式会社 しもふさの郷		
事業所名	グループホーム くわの実	ユニット名(くわの実)	
所在地	茨城県結城市大字武井1244番地6		
自己評価作成日	令和元年12月20日	評価結果市町村受理日	令和 2年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0890700040-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和2年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

澄んだ空気と森林の中に佇む生活環境のもと、入居者の心身の状況に合わせて、その人の能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、一人一人の個性に合わせた必要な援助を行なっている。また、日常的に散歩に出かけ、ヤギや小鳥などとふれあい心豊かに過ごすことができるように支援している。そのほか、買い物ツアーや季節行事に出かけ地域との交流を積極的に推進している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、職員は利用者のその時の気持ちの理解に努め、利用者の気持ちがいいつでも安らぐよう、できるだけ利用者に寄り添い、会話をし話を聞き、利用者が安心して安定した自立生活が送れるよう支援に努めている。
隣接して同法人が運営する、ショートステイ、デイサービス、有料老人ホームがあり、法人合同の行事感謝祭の実施、研修や広報等7つある委員会の運営、夜間の緊急時の対応等協力体制を取りながら運営が行われている。
管理者は日頃から職員に声掛け等心掛け、職員からもなんでも話せる風通しの良い人間関係が出来ており、職員はそのような働きやすい環境で利用者の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームくわの実の基本理念を施設内の見やすい場所に掲示し周知を図っている。また、職員は、名札の裏面に基本理念を記載し、常に携帯している。	職員は、事業所の基本理念を、食堂兼居間のいつでも目に付くところに掲示するとともに、名札の裏に記入して意識するようにしている。出来るだけ利用者に寄り添い、話を聞くことに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に散歩、買い物ツアー等の外出機会を通じて、地域住民とのふれあいの機会を設けている。また、ボランティアの受け入れや菊祭りなどの季節行事に積極的に参加している。	散歩時に農作業している住民と会話したり、買い物で出かけた時に地域住民と触れ合う機会がある。地域のボランティアを多く受け入れることで交流の機会となっている。しもつけ感謝祭に地域住民や家族等招待して、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に事業所行事等の参加者や利用者家族に対し、認知症への理解や支援方法を教示している。また、更生保護事業や特別支援学校の実習生の受け入れなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市職員、利用者家族、地域住民代表出席のもと、活動状況等の報告を行なっている。そこで出た意見はサービス提供に反映するよう務めている。但し、今年度も年6回の開催に至っていない。	家族等の代表や市職員、地域住民の代表等が参加して、事業所の状況を報告したり、委員から意見を聴いたりしているが、年6回行うまでに至っていない。	運営推進会議の開催は2ヶ月に1回 又年6回の開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、管理者は市担当者と機会あるごとに連携を深めるよう務めている。また、当施設主催の感謝祭には市のマスコットキャラクターを借り入れるなど市のPR活動に貢献している。	運営推進会議への出席、市の地域密着型のグループホームの協議会に市の担当者が出席しているので、情報交換をしているほか、生活保護受給利用者に対して市の職員が年1回程度訪問するので、利用者の生活状況等を話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の職員で構成する身体拘束等廃止委員会を発足し、3ヶ月に1回定期的に開催している。また、職員研修は年2回実施しており、身体拘束廃止に向けた取り組みを実践している。なお、グループホームくわの実では、拘束を行なった事例はありません。	事業所として、身体拘束廃止に向けた指針を作成し、3ヶ月に1回以上の委員会の開催、年2回以上の職員の研修に取り組んでいる。身体拘束排除に関するマニュアル、やむを得ず身体拘束をする場合の同意書などの書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等廃止委員会主催の研修では、身体拘束に関することのみならず、高齢者の権利擁護に関することも研修しており、高齢者虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を必要とする利用者がある場合には、行政、親族等と協議し、制度利用に結びつくよう支援に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込や契約時に利用者及び家族等に対し、契約書及び重要事項説明書に基づき説明を行い、理解を得るよう努めている。また、報酬改定があった場合には、その都度通知している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等から出た意見や苦情については、些細なことでも事業運営に反映するように努めている。また、玄関先に意見箱を設置し、意見が出やすい環境に努めている。	要事項説明書に苦情を言える機関が明記されていて、家族等に説明している。面会時やイベントの時に、職員から話掛け、意見や要望を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常日頃から職員とコミュニケーションを図っており、働きやすい環境に努めている。また、定期的に開催するフロア会議において職員の意見を聞く機会を設けている。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、毎月の職員会議で意見や要望を聴いている。物品購入やケアの方法について話し合うことが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設者は、管理者及び職員に対し、必要に応じ随時面接し、職員のメンタルヘルスに注意を払っている。また、夜勤者には年2回の健康診断を実施しており、職員の健康管理にも注意を払っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社では、職員全体の技術・知識の向上を目指す「研修委員会」を設置し、定期的な研修会を実施している。資格取得を希望する者には、金銭面や特別休暇を与えるなど側面からバックアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業所の職員で構成する連絡会に管理者、職員が出席し意見交換を図り交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、生活環境の変化により、心身状態が不安定のため、職員が寄り添い利用者の不安なことや要求等に傾聴し、コミュニケーションを図るようにして信頼関係の構築に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や契約時から、利用者の心身の状況や要望等を家族から聞き取り、それに合ったケアに務めるとともに、連絡を密にして家族等との信頼関係の構築に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等から利用者の不安なことや暴言などの行動状況を聞き取り、それにより管理者が認知症の行動・心理状況から起こる性格・価値観などの要因を職員に周知し、共通認識を持ってその人に合ったケアに務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意志と人格を尊重し、その人の立場に立ったサービスを提供すると共に、利用者と職員が一体となって共同生活の場の環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族は大切な存在であるので、家族との面会や外出の機会を設けるなどふれあいの場を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所が途切れないよう、外出する機会を設けている。また、ほとんどの入居者は、家族以外面会に来ることはないが、入居者のなかには、近所の友人が面会に来ることもある。	入居時の基本情報や日々の利用者との会話や家族からの話から把握している。面会者にお茶を出して寛いでもらえるようにしたり、馴染みの店で買い物をするなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活するうえで、利用者同士の関わりは、最も大切であり、カラオケやゲームなどのレクリエーションなどで交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され他の施設に移られても、必要に応じて本人及び家族等のフォローアップに努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族等の意向を把握し、その意向に沿って作成するケアプランに基づきサービスを提供している。	表情や仕草から思いを汲み取り、職員間で検討して支援している。常に利用者の傍に寄り添って、ゆっくりと話を聴くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等から、本人の生活状況や生活環境等を把握し、職員が共通認識をもって利用者本位のケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者本位のケアプランに基づき、その人の心身の状態に合ったケアに務めるよう職員に周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的に行い、本人、家族、職員との意見交換を行い、医療関係者の意見を参考にしながら、適宜ケアプランの見直しを行なっている。	利用者や家族等の意向を基に、医療関係者の意見を取り入れて計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングを行い、定期的に見直しを行っている。利用者の状況に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を作成し、朝礼や申し送り等で職員に伝達し、情報を共有しその人に合ったケアを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人では、グループホームに併設し、ショートステイ、デイサービス、介護付有料老人ホームを有しており、利用者の個別ニーズに柔軟に対応できる体制が構築されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアプランの作成にあたっては、利用者が今まで培ってきた地域資源を把握し、安心して暮らして行けるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人関連のしもふさクリニック(歯科)・みわの郷クリニック(内科・外科)により、定期的な健康診断や訪問診療の実施など医療体制は充実している。また、専門性や緊急性のある場合には、近隣の病院等との連携も図られている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能であることを説明しているほか、協力医療機関の医師による訪問診療が月2回あるなど、医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の管理者は、看護師であり、利用者が適切に医療が受けられるよう管理し、支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院又は退院する場合には、ソーシャルワーカー及び医師等の病院関係者と情報交換を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に備えて、早い段階から説明を行い、かかりつけ医、家族等との連携を図るよう務めている。また、看取りに関するマニュアルにより、定期的に職員研修を実施している。	看取りに関して、重要事項説明書に明記している。「看取り介護に関する指針」がある。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行ない、重度化した時に同意書を取っている。職員は内部研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生・緊急時の対応マニュアルが整備されている。フロア会議において定期的に職員に周知し、緊急時に混乱が生じないよう教育している。また、AEDが備え付けられており、市が主催する研修会に職員が参加し実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、計画的な防災訓練と消防設備点検を実施して、利用者の安全確保に努めている。	毎年避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練などを行うまでには至っていない。訓練後に反省会を行い、課題について話し合ったり、訓練の記録を残すまでには至っていない。	夜間想定した訓練と訓練終了後には反省会を行い反省と課題について話し合い記録に残すことを期待する

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、利用者には敬意を払い、きちんと姓で呼ぶよう心かけている。同姓の場合は名前で呼ぶこともあるが、利用者の誇りを損ねないような言葉遣いに注意している。	人権尊重や守秘義務については、管理者が会議で話をしたり、年1回合同で研修を行っている。家族等からは個人情報に関する同意書を得ている。日頃のケアでは、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から、家族に電話したいとの要望は、その都度対応している。また、買い物ツアーなどに出かけたときは、代金を本人に支払わせるなど自己決定させることに務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の気分を損ねないよう、外出ツアーなどの行事があっても、本人の意志を尊重し居室で過ごされることもあります。また、レクリエーションなどの施設内行事も本人の意志を尊重し実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の中には、お化粧や髪を整えることが出来ない方もいるので、職員が支援している。また、外部の理美容の受付を月2回実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の心身の状態、能力に応じてできるものは、職員と協力しながら行なっている。昼食は職員と一緒に食べ、家族団らんの雰囲気作りを務めている。	併設する通所介護事業所の管理栄養士が献立を立て、調理をしたおかずが届き、職員がご飯を炊いて提供している。近隣の農家さんからもらった野菜等を食事のメニューに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、本人が嫌いなものでも食べてもらえるよう常に声かけを行なっている。水分摂取には特に注意し、夜間でも一人一人に合った水分補給を管理者である看護師が管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れが出来ない方は、職員が行なっている。自歯の方は、職員の介助で歯磨きを実施している。また、しもふさクリニックの歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態に応じ、適切な排泄介助とオムツ外しに取り組んでいる。また、職員は利用者の排泄パターンを理解するように務め、適宜トイレ誘導を行なっている。	排泄チェック表等からひとり一人の排泄パターンを把握し、声掛け誘導して、できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレを使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の水分摂取量及び排泄時間を記録に取り、常に便秘には注意を払っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者の希望の時間帯を考慮し行なっている。また、一人で入浴を希望される方は、次の人を脱衣場に入れないなど創意工夫しながら実施している。	入浴は基本週3回午前中となっている。介助に複数の職員が必要な場合には、時間帯を考慮して介助している。入浴を拒む利用者には、声掛けの内容を工夫するなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状態が違っているため、安静や休息時間は、個々に応じて対応している。また、就寝時間も日課表にとらわれず希望される時間帯にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、管理者である看護師がその使用方法、誤飲防止の方策など、常に職員に周知している。特に誤飲については重大事故になるため、利用者への声かけなど本人確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設周辺の草取りや、お花の水やり、小鳥、ウサギに餌を与えるなどその人に合った役割を決め、日々楽しく過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や外食ツアー、桜、菊観賞など定期的に外出機会を設けている。また、天気の良い日には、近隣にある野菜畑や併設の有料老人ホームでヤギや鳥を飼育しているので、散歩に出かけている。ただし、冬季は感染症予防対策のため、外出を控えている。	近隣の野菜畑や有料老人ホームで飼育しているヤギを見に散歩に出かけている。年2回買い物ツアーや外食ツアーに出かけ、気分転換を図っている。年間行事計画を立てて、車いすの利用者も一緒に花見や節分祭、敬老会などに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	防犯上の観点から、お金は所持させていないが、買い物ツアーに出かけたときは、家族から預かっているお金であることを伝え、支払いを本人に行なわせるなど、金銭感覚を忘れないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、ホール内にある電話で、職員が支援しながら本人が直接掛けるようにしている。手紙については、本人に書かせているが、宛先が不十分のため、家族に直接渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月手作りカレンダーを利用者と職員が一緒になって作成し、掲示し季節感、生活感が漂うにしている。また、各種行事に参加した写真をホール内に貼るなどして癒しの空間づくりに務めている。	中庭には備え付けのテーブル、椅子が設置されていて、天気の良い時にはそこで外気に当たったり、お茶を飲んだりしている。ユニットの南側のリビングルームは日当たりも良く、大きめのソファが置いてあり、利用者がゆっくりと寛いだり、家族等の面会時等に一緒に過ごせる場所となっている。居間兼食堂には窓辺に観葉植物を置いたり、熱帯魚の水槽では無数のグッピーが泳いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では、常に利用者が集まっており、テレビを観たり、カラオケやゲームなどで楽しんでいる。一人で過ごしたいときは、ホール内のソファでくつろいたり、居室で寝ていることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいるときと替わらないよう、居室に家族の写真を貼ったり、家具や椅子を自由に持ち込んでおります。また、希望によりペットから畳に変えることもあります。	居室には、エアコンやベッド、洗面台、カーテン等が備え付けられている。今まで使用していた馴染みの物を持参してもらえるように家族等に依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の日常生活を良く観察し、本人ができること、できないことを把握して安全な生活が送れるよう支援している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム くわの実
作成日 令和 2年 3月31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催は、2ヶ月に1回又は年6回の開催を期待する。	概ね2ヶ月に1回、年6回開催できるように年次計画を立て実践するよう務める。	防災訓練や会社主催の感謝祭開催時に合わせ、年6回開催する。	1 2 ヶ月
2	35	夜間想定訓練と訓練終了後には反省会を行い反省と課題について話し合い記録に残すことを期待する。	消防署立会いの総合訓練と自主訓練を各1回実施する。	自主訓練は、夜間想定訓練を実施する。また、会社全体の専門委員会である防災委員会で訓練内容の検証を行なう。	1 2 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。